

令和8年度

社会人特別選抜試験問題

保健福祉学部 保健福祉学科	看護学コース 理学療法学コース 作業療法学コース コミュニケーション障害学コース 人間福祉学コース	小論文
------------------	---	-----

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題冊子（7頁）には、解答用紙（3枚）及び下書き用紙（1枚）が挟み込んであります。試験開始の合図があったら、直ちに中を確認、印刷や枚数の不備などがあった場合、監督者に申し出なさい。
- 3 問題冊子の間に挟み込んである解答用紙を取り出して、すべての解答用紙の所定欄に受験番号を記入しなさい。
- 4 解答は、すべて解答用紙の所定欄に記入しなさい。
- 5 句読点は、1字と数えなさい。
- 6 試験室で配付された問題冊子及び下書き用紙は、退出時に持ち帰らなさい。

このページは白紙です。

このページは白紙です。

課題文を読み、後の問いに答えなさい。

【課題文】

「利他」とはなにか。

利他について研究を始めたとき、私は実は利他主義という立場にかなり懐疑的な考えを持っていました。懐疑を乗り越えて、むしろ「利他ぎらい」といっていいほどでした。

私はこれまで、目の見えない人や¹聴覚の人、四肢切断した人など、さまざまな障害を持っている人が、どのように世界を認識し、その体をどのように使いこなすのかを調査してきました。

理由は追って説明しますが、障害のある人と関わるなかで、利他的な精神や行動が、むしろ「壁」になっているような場面に、数多く遭遇してきたからです。「困っている人のために」という周囲の思いが、結果として全然本人のためになっていない。利他は利他的ではないのではないのか？ そんな敵意のような警戒心を抱くようになっていたのです。

でも、だからこそ思いました。利他のことを正面から考えてみたい、と。なんてあまのじゃくなんだ、と思われるかもしれませんが、けれども研究者というのは、得てして本人にとってよく分からないもの、苦手なものを研究対象とするものなのです。

そして、実は多くの人が、「利他という言葉は聞くけれどその実態はよく分からない」と感じているのではないかと思います。

キリスト教の「隣人愛」や、浄土真宗の「他力」など、利他の考え方は伝統的に宗教的な価値観と密接に結びついていました。こうした背景を理解することは重要ですが、現代における利他という言葉は、しばしば宗教的な文脈とは切り離されて流布するようになっていきます。その結果、「利他」の輪郭もかなり曖昧なものになっているように思います。

たとえば、利他というと自己を犠牲にするイメージがあります。利他的な社会とは、お互いにちよつとずつ我慢しなければならぬような社会なのではないでしょうか？

あるいは、共感の問題。利他与共感の関係は、利他をめぐる古典的な争点のひとつですが、利他に共感が必要だとしたら、共感できる人にだけ利他的に振る舞い、共感できない人に対しては、利他的に振る舞わなくてもよいのでしょうか？

(中略)

経済学者ジャック・アタリの利他主義について考えていきましょう。

アタリは、以前からパンデミックを予想し、地球に迫る危機について警鐘を鳴らしてきました。そのなかで、彼は地球を救うために必要な利他主義の重要性を強く主張してきました。

アタリの利他主義の特徴は、その「合理性」です。^{くだん}件のNHKの番組でも、アタリはこう語っています。

利他主義とは、合理的な利己主義にほかなりません。みずからが感染の脅威にさらされないためには、他人の感染を確実に防ぐ必要があります。利他的であることは、ひいては自分の利益になるのです。またほかの国々が感染していないことも自国の利益になります。たとえば日本の場合も、世界の国々が栄えていれば市場が拡大し、長期的にみると国益にもつながりますよね。

合理的利他主義の特徴は、「自分にとっての利益」を行為の動機にしているところです。他者に利することが、結果として自分に利することになる。日本にも「情けは人のためならず」ということわざがありますが、他人のためにしたことの恩恵が、めぐりめぐって自分のところにかえってくる、という発想ですね。自分のためになるのだから、アタリの言うように、利他主義は利己主義にとって合理的な戦略なのです。

こうした考え方は、いうまでもなく、利他主義は利己主義の対義語である、という伝統的な考え方を意図的に転倒させたものです。

「利他主義 Altruism」という言葉は、フランスのオーギュスト・コントによって、19世紀半ばに提唱されるようになった、比較的新しい造語です。「altrui」とは古フランス語で「他者」のこと。元になったラテン語は「alter」ですから、これは「オルタナティブ（別の、ほかの）」という言葉イメージすると分かりやすいですね。

コントが利他主義と言ったとき、この言葉は「利己主義 Egoism」に対置される言葉として想定されていました。コントにとって利他主義とは「他者のために生きる」こと、つまり自己犠牲を指していたのです。

こうしたコントの考え方からすると、合理的利他主義の考え方は、まさに「ルーツをひっくりかえす」発想であるといえます。これをどう考えるかについては、またあとで

述べたいと思います。いずれにせよ、合理的利他主義は、現代の利他をめぐる主要な考え方のひとつとなっています。

利益を動機とするという点で合理的利他主義の特徴をさらに推し進めたのが、効果的利他主義です。効果的利他主義の考え方は、日本人の感覚からするとちょっとギョッとしてしまうところもあるのですが、2000年代半ばごろから、英語圏を中心とする若者エリート層のあいだでかなりの広がりをみせています。

効果的利他主義の理論的支柱となっているのは、哲学者のピーター・シンガーです。彼は、効果的利他主義の原則を、端的にこう述べています。

効果的な利他主義は、非常にシンプルな考え方から生まれています。「私たちは、自分にできる〈いちばんたくさんのいいこと〉をしなければならない」という考え方です。

『あなたが世界のためにできるたったひとつのこと—〈効果的な利他主義〉のすすめ』

自分にできる〈いちばんたくさんのいいこと〉。ポイントは、「いちばんたくさんの」というところにあります。最大多数の最大幸福。つまりこれは「功利主義」の考え方です。

効果的利他主義は、単に功利主義をとるにとどまらず、幸福を徹底的に数値化します。たとえば自分の財産から1000ドルを寄付しようとする場合、それをどの団体に、どのような名目で寄付をすると、もっとも多くの善をもたらすことができるのか。得られる善を事前に評価し、それが最大になるところに寄付の対象を定めることによって、効率よく利他を行おうとするのです。

シンガーの本から具体的な例を引いてみましょう。アメリカで盲導犬を一頭養成するのに必要な金額は4万ドルである、という数字があげられています。これは発展途上国でトラコーマという目の病気を400人から2000人治療できる金額に相当します。ならば、アメリカ国内での盲導犬の養成よりも、発展途上国での治療のためにお金を払ったほうが、より多くの目の悪い人を助けることができる。つまり「より多くのいいこと」ができるので、発展途上国のトラコーマ治療のために寄付をしたほうが効果的であると判断されることになります。

実際、アメリカを中心にさまざまな効果的利他主義の団体が立ち上がっていますが、

そのウェブサイトを見ると、行われているのは徹底的な「評価と比較」です。シンガーの著作名を冠した「The Life You Can Save」というサイトでは、「Best Charities」としてオススの効果的な寄付先のリストが用意してあり、ボタンひとつで手軽に寄付ができるようになっています。

あるいは「Giving what we can」というサイトでは、居住地、年収、家族構成を入力すると、自分が裕福さにおいて世界の上位何%に入るかが示され、年収の10%を寄付することによって、蚊帳であれば何張、寄生虫症の薬であれば何錠、健康な生活であれば何人分贈ることができるかが、一瞬で分かるようになっています。

出典：伊藤 亜紗（編）『「利他」とは何か』、集英社新書、2021年、一部改変。

【問1】 ジャック・アタリの利他主義の特徴を40字以内で説明しなさい。

【問2】 「効果的利他主義」とは何か、課題文を参考に90字以内で述べなさい。

【問3】 課題文を参考に、日本の保健医療福祉の分野において、どのような「効果的利他主義」に基づく取り組みが有用だと考えますか。理由も含めて400字以上500字以内で述べなさい。

